第48回通常総会

昭和37年5月26日9時30分より早稲田大学大隈小講堂で開催し，出席会員903名（委任状をふくむ）をもって法定数745名を越えたので総会が成立，議事に入った。

議案 1. 昭和36年度事業報告 (36.4.1～37.3.31)

尾之内理事より説明し承認された。

(1) 理事改選 (36.5.23，常議員会で決定)

	(退任)	(留任)	(新任)
会長	沼田政矩		永田年
副会長	富樫凱一	滝山養	山本三郎
専務理事		末森猛雄	
理事	尾之内由紀夫	阿部一郎	尾之内由紀夫 (再任)
	川勝四郎	小倉宏三	奥村敏恵
	川村満雄	岡本東一郎	金子収事
	田中行男	小西一郎	長浜正雄
	八十島義之助	佐藤肇	松本繁樹
		林泰造	

(2) 役員登録

理事変更登記　昭和36年7月31日

(3) 通常総会および役員会

事業報告をする尾之内総務理事

(1) 通常総会 (36.5.27，名古屋工業大学講堂)

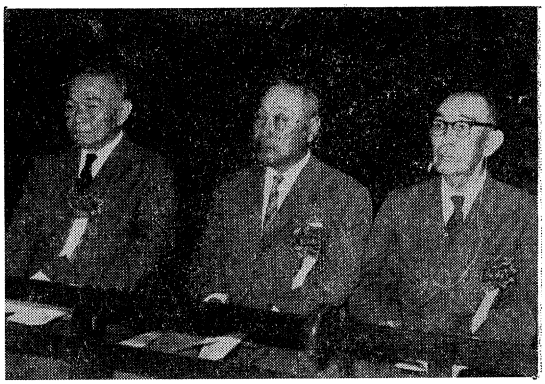
出席者：1005名，委任状 890名，計 1895名
有権者 13550名（法定数 678名）

1) 昭和35年度事業報告承認
2) 昭和35年度決算報告承認
3) 土木学会規則の一部（特別員の級および会費）改正報告承認
　特別員1級A 70000円，1級B 40000円
　1級C 20000円，1級D 10000円
　2級　5000円に改正 (36.4.1より実施)
4) 名誉員に次の9氏を推挙
　内田　寮郎君　内海　清温君　近藤　博夫君
　田淵　寿郎君　萩原　俊一君　花井又太郎君
　原口忠次郎君　藤井　真透君　山崎　匡輔君
5) 土木賞の授与
　土木学会賞：小野木次郎君　永井荘七郎君
　土木学会奨励賞：
　　椹木　亨君　室田　明君　野沢　太三君
6) 新理事の紹介（前掲）
7) 沼田会長講演「土木技術の振興」
8) 特別講演　名古屋市長 杉戸　清君「土木工事の遅速」

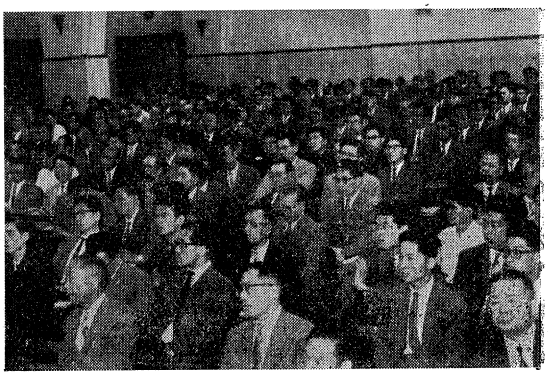
(2) 常議員会

1) 定　例 (36.5.23)
　① 昭和36年度理事選任
　② 昭和35年度事業報告可決
　③ 昭和35年度決算報告可決
　④ 名誉員9氏の推挙決定（前掲）

総会に出席された左より小野・金子・中村の各新名誉員



総会会場風景



⑤ 昭和 35 年度土木賞授賞者を決定（前掲）

2) 臨　時 (37.1.16)

規則第 11 条中正員および学生員の会費改正を可決

① 正　員　年額 1 200 円を 1 800 円とする

② 学年員　年額　600 円を　900 円とする

3) 定　例 (37.3.30)

① 昭和 37 年度事業計画可決

② 昭和 37 年度収支予算可決

(3) 理　事　会

定　例 (36.4.～37.3, 12 回)

① 協議事項　76 件

② 報告事項　各種委員会およびその他

(4) 支部幹事長会議

1) (36.8.31)

本部，支部間および支部相互間の連けいの密接化。

事業の拡大，増収対策等について具体的に討議検討した。

2) (37.1.26)

特別員増強についての具体的な方法の検討，それに関連した支部交付金の増加率について，さらに学会活動の飛躍についての対策を審議した。

(4) 各種委員会

(1) 会誌編集委員会

委員長　斎藤義治，副委員長　堺　毅，委員および幹事 35 名

1) 本委員会 12 回，小委員会 12 回，2) 土木学会誌 46 巻 4 号～47 巻 3 号 12 冊，登載原稿：論説 6，報告 29，解説 17，資料 4，寄書 12，講演 11，講座 12，その他，随想，海外事情，研究所めぐり，豆知識，論文紹介，特許紹介，文献抄録，文献目録，話のひろば，ロータリー，ニュース等，3) 発行ページ 1 420（本文および広告をふくむ），4) 発行部数 184 300 部，5) 会誌の表紙を全面的に改正すると同時に，内容の平易化をはかることに努力。

(2) 文献調査委員会

委員長　久野悟郎，委員および幹事 21 名

1) 委員会 12 回，2) 学会誌 47 巻 4 号～47 巻 3 号に文献抄録 79 ページ，文献目録 50 ページを登載，3) 文献カード整理およびパンチカード システムの徹底をはかった。

(3) 論文集編集委員会

委員長　丸安隆和，副委員長　林　泰造，委員および幹事 39 名

1) 委員会　部会長会 6 回，各部会 6 回，2) 総合論文集 (74, 75, 76, 77, 78, 79 の各号)，3) 発行 505 ページ 35 編（本文および広告をふくむ），4) 発行部数 18 330 部，5) 74 号より希望者にのみ配布する方針を決定，月刊を目標として経費の節減と増ページを計画した。

(4) 出版企画委員会

委員長　佐藤寛政，副委員長　荒井　力，委員および幹事 28 名

1) 委員会 5 回，幹事会 3 回，2) 会誌，論文集を除く学会出版物および監修出版物の調整，新規刊行物を積極的に企画。

(5) 水理委員会

委員長　伊藤　剛，委員および幹事 46 名

1) 本委員会 2 回，在京委員会 2 回，幹事会 3 回，2) 第 6 回水理研究会講演会 36.5.26 名古屋名交会館，3) 昭和 36 年度「水理学研究の現況」を会誌 3 月号に登載，4) 第 9 回国際水理学会議（ユーゴー・ドウブロクニク 9 月）に秋草，岩佐，田中，永井，林の 5 氏が出席，5) 水理公式集の改訂につき審議し，改訂委員会を発足することにした，6) 水理研究会を解散し，今後の運営について検討。

(6) 橋梁・構造委員会

委員長　福田武雄，委員および幹事 18 名

1) 第 8 回「構造物における高張力鋼およびその活用に関する研究」発表会を 36.10.18 開催し，同時に講演集を刊行。

(7) 海外連絡委員会

委員長　田中茂美，委員および幹事 16 名

1) 委員会 3 回，2) 英文年報 Civil Engineering in Japan, 1961 の発刊（A 4 判 96 ページ），3) 海外へわが国の土木工学の P R 活動を協議，4) その他国際会議に関する事項を逐次処理。

(8) 耐震工学委員会

委員長　那須信治，委員 24 名

1) 委員会 11 回，2) 地震工学トレーニング センターに協力，3) 36.10.16～17 に第 5 回地震工学研究発表会を開催し同時にパンフレットを刊行，4) 来年度のシンポジウムを建築，土質，地震の各学会と共催すべく地震工学国内シンポジウム運営委員会（委員長 岡本舜三）を設置計画中，5) その他，地震工学の国際組織に関する事項を処理。

(9) 海岸工学委員会

委員長　本間　仁，委員 34 名

1) 委員会 1 回，2) Coastal Engineering in Japan Vol. 4 を刊行，3) 第 8 回海岸工学講演会を 36.9.12～13 札幌において開催，同時に講演集を刊行，4) その他，国際会議に関する事項を処理。

(10) 土木賞委員会

委員長　永田　年，副委員長　星埜　和，委員および幹事 17 名

1) 委員会 4 回，主査幹事会 6 回，2) 36 年度土木賞選考につき審議。

(11) 高校土木教育研究会

委員長　沼田政矩，委員および幹事 30 名

1) 研究会 1 回，幹事会 2 回，2) 高校における土木教育充実に資することを目的とし 36.11.11 発足，3) 土木製図の監修，実験の指導，ワーク ブックスの出版等を検討。

(12) 土木学会 50 周年記念事業委員会

委員 61 名（うち常任委員 21 名）

1) 準備および常任委員会 8 回，2) 創立 50 周年 (39.11.24) の記念事業の準備を 6 月から着手し準備委員会は 7 月に，委員会を 9 月に発足し，常任委員会で記念事業の内容について協議。

(13) 土木技術者資格研究委員会

委員長　鈴木雅次，委員および幹事 23 名

1) 委員会 1 回，2) 資格の制度化について検討の上結論を報告。

(14) トンネル工学委員会

委員長　藤井松太郎　委員 24 名（うち委員兼幹事 8 名）

1) 委員会 1 回，幹事会 2 回，2) トンネル工学の技術の進歩交流をはかる目的で 37 年 2 月発足，3) トンネル工学標準示方書作成の準備，4) トンネル工学シンポジウムを計画。

(15) 吉田賞委員会

委員長　平山復二郎（平山委員長逝去のため後任の沼田副委員長）

副委員長　沼田政矩，大石重成，委員および幹事 29 名

1) 委員会3回，幹事会2回，2) 吉田賞の授賞者および吉田研究奨励金の被授与者の選考，3) 委員会内規および授与規定の作成。

(15-1) 材料小委員会 (37.3.27)　材料関係論文の選考を行ない第3回吉田賞委員会に報告。

(15-2) 構造小委員会 (37.3.28)　構造関係論文の選考を行ない第3回吉田賞委員会に報告。

(15-3) 研究奨励金小委員会 (37.3.29)　研究奨励金被授与者の選考を行ない第3回吉田賞委員会に報告。

(16) コンクリート委員会

委員長　国分正胤，委員および幹事 58 名

1) 委員会 1回，2) コンクリート標準示方書に関する事項，プレストレスト コンクリート設計施工指針に関する事項，A.C.I 支部東京設置に関する事項，3) 下部組織にフライ アッシュ小委員会，プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会，グラウト専門委員会をおき，各部会ごとに審議中。

(16-1) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂小委員会

委員長　国分正胤，委員および幹事 54 名

1) 委員会2回，幹事会1回，分科会 23 回，2) 鉄筋コンクリート標準示方書改訂のため部門別に分科会を設け改訂案につき審議。

(16-2) プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会

委員長　国分正胤，主査　猪股俊司，樋口芳朗，委員および幹事 64 名

昭和 36 年度土木学会プレストレスト コンクリート設計施工指針の改訂とその刊行。

(16-3) フライ アッシュ小委員会

委員長　国分正胤，委員および幹事 23 名

1) 委員会2回，幹事会2回，2) フライ アッシュを混和したコンクリート中の鉄筋のサビに関する長期研究および共通試験実施方法を継続研究。

(16-4) グラウト専門委員会

委員長　国分正胤，委員および幹事 24 名

1) 委員会 2回，2) PC設計施工指針のグラウト指針につき逐条審議，同委員会で決定した事項を訂正し学会PCの指針として制定，3) 上記指針案におけるグラウト試験器具を希望者に頒布斡旋。

(16-5) 異形鉄筋設計研究小委員会

委員長　国分正胤，委員および幹事 16 名

1) 委員会 11 回，幹事会1回，2) 鋼材クラブの委託研究として異形鉄筋の設計例示を作成すべく検討中。

(16-6) プレストレスト コンクリート委員会

委員長　国分正胤，委員および幹事 54 名

1) 幹事会2回，分科会 12 回，2) 種々の事情により既往の小委員会を改組し，次期 PC設計施工指針改訂にそなえ小委員会を設計，施工，コンクリート，鋼材，グラウトの5分科会に分けて調査研究を進めている。

(17) 合成桁鉄道橋設計示方書研究委員会

委員長　沼田政矩，委員および幹事 29 名

1) 委員会 3回，2) 本年度より国鉄から委託された合成桁鉄道橋設計示方書に関する研究について草案を作成，報告。

(18) プレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準研究小委員会

委員長　国分正胤，委員および幹事 33 名

1) 委員会2回，幹事会4回，2) 本年度より国鉄から委託されたプレストレスト コンクリート鉄道橋設計施工基準に関する研究について，基準を作成すべく目次を検討ついで草案を作成，報告。

(19) 構造物耐震設計研究委員会

委員長　沼田政矩，副委員長　岡本舜三，委員および幹事 49 名

1) 委員会3回，幹事会9回，2) 過去3カ年引続き国鉄より委託された構造物耐震設計方法に関する研究につき本年度はその総まとめを行なった。

(20) 東京湾沿岸地域における貨物流動調査委員会

委員長　沼田政矩，副委員長　八十島義之助，委員および幹事 26 名

1) 委員会1回，幹事会2回，2) 運輸省第二港湾建設局の委託研究として東京湾沿岸地域の海陸輸送諸施設の将来計画を研究。

(21) 本州四国連絡橋技術調査委員会

委員長　田中　豊，副委員長　平山復二郎，鈴木雅次，内海清温，委員および幹事 33 名

1) 委員会 1回，2) 建設省および国鉄の委託研究として 37.1.24 発足し，本州四国連絡橋について技術的な検討を行なうことを目的とし研究中であって基礎に関する専門部会を設け目下審議中。

(21-1) 本州四国連絡橋技術調査委員会 基礎に関する専門部会

部会長　沼田政矩，委員および幹事 41 名

1) 委員会1回，幹事会2回，2) 地形，地質の調査，橋梁基礎の構造・工法等について検討。

(22) 八郎潟干拓水理研究特別委員会

委員長　本間　仁，委員および幹事 12 名

1) 委員会3回，2) 農林省委託研究として八郎潟干拓の船越水道河口施工計画について審議した。

(23) 土木工学ハンドブック編集委員会

委員長　福田武雄，主査幹事　奥村敏恵，長浜正雄，主査および幹事 76 名，執筆委員約 300 名

29 年発刊の土木工学ハンドブックを全面的に改訂し，37 年5月原稿締切，37 年 12 月末の出版を目標とし，各編ごとに執筆中。

(24) その他の常置委員会

① 土木振興対策委員会
② 大正以降土木史編集委員会
③ 製図規格委員会
④ 土木工学叢書委員会
⑤ 土木賞規約制定委員会
⑥ 海岸保全施設設計小委員会
⑦ 災害対策委員会
⑧ 原子力土木技術委員会

(5) 本部の行事

(1) 第6回水理研究会講演会(36.5.26，名古屋市名交会館)
演　題　16 題　参加者　130 名

(2) 総会会員懇親パーテー(36.5.27，名古屋市豊田ホール)
参加者　500 名

(3) 第16回年次学術講演会(36.5.27～28，名古屋工業大学)
総合講演　9 題　参加者 1 080 名
一般講演　172 題　参加者 1 690 名

(4) 総会にともなう見学会 A，C，D班 (36.5.29～30)，B

班（36.5.28～30）

A班　静岡コース　　参加者　54 名
B班　黒四コース　　参加者　45 名
C班　伊勢志摩コース　参加者　60 名
D班　名古屋市内コース　参加者　104 名

（5）　コンクリート懇談会（36.5.28，名古屋工業大学）
参加者　90 名

（6）　夏期講習会（PC 技術協会と共催）

1）講習会（36.8.23～24，虎ノ門共済会館）
昭和 36 年度改訂プレストレスト コンクリート設計施工指針
—最近におけるプレストレスト コンクリート設計施工指針の改訂とPC橋の現況—　12 題　参加者 1064 名

2）見学者（36.8.25）
第1班（オリエンタル コンクリート多摩工場，国鉄鉄道技術研究所，荻窪地下鉄工事）　参加者　140 名
第2班（興国鋼線索KK東京工場，京葉道路，川崎製鉄KK千葉製鉄所，建設省土木研究所千葉支所）
参加者　80 名
第3班（首都高速道路高架橋，国鉄根岸線PC高架橋工事）　参加者　147 名

（7）　第8回海岸工学講演会（北海道支部と共催）（36.9.12～13，札幌商工会議所）
演　題　35 題　参加者　200 名
見学会（36.9.14～15），参加者　60 名

（8）　北美濃地震調査発表会（36.9.18，土木学会）
演　題　15 題　参加者　51 名

（9）　第5回地震工学研究発表会（36.10.16～17，土木学会）
演　題　23 題　参加者　70 名

（10）　講習会（中部支部およびPC技術協会と共催）（36.10.20，名古屋市公会堂）
プレストレスト コンクリート改訂設計施工指針を主として
演　題　7 題　参加者　270 名

（11）　関東地区学生諸君のための映画会（36.10～37.3，6回）
上映 17 種類　参加者延べ　187 名

（12）　秋のエキスカーション（西部支部と共催）（36.11.7～8）
関門トンネル，北九州道路，若戸橋，博多港
参加者 75 名

（13）　Ippen 教授来朝を期とした懇談会および歓迎パーテー（36.11.15，国際観光ホテル）
16.00～18.00　懇談会　　参加者 15 名
18.00 より　パーテー　参加者 11 名

（14）　関係学協会と共催の行事

① 第 11 回応用力学連合講演会（36.8.30～9.1，大阪大学）
② 第5回材料試験連合講演会（36.9.7～8，東京大学）
③ 第 8 回橋梁・構造工学研究発表会（36.10.18，日本建築学会）
演　題　10 題　参加者　120 名
④ 第 8 回風に関するシンポジウム（36.11.14，農業技術研究所講堂）
一般講演8題，特別講演2題　参加者延べ 80 名
⑤ 第3回原子力研究総合発表会（37.2.14～17，学士会館）

（6）　そ の 他

吉田徳次郎博士記念事業会からつぎの条件で運営することで資金の寄付を受けた。

① コンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれに関連する優秀な研究論文または工事にたいし「吉田賞」を設ける。
② コンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれに関連する研究を助成する「吉田研究奨励金」を設ける。
③ 授与者は特定の人に限定せず，広く土木技術界に求める。

（7）　支 部 行 事

（1）　北海道支部　支部長　三島　勇

1）総会（36.4.6，札幌市民会館）
2）役員会および幹事会（36.6.30～37.2.23）6回
3）講演会第1回（36.11.25，土質工学会と共催）札幌商工会議所ホール
「第5回国際土質工学会議に出席して」参加者 100 名
第2回（37.1.19，北海道土木技術会と共催）北大クラーク会館
演　題　5 題　参加者　200 名
第8回海岸工学講演会（36.9.12～13，本部と共催）
4）技術研究発表会（37.2.27，札幌市民会館）
演　題　22 題
5）講習会（37.2.28，札幌市民会館）3題
6）見学会（第1回 36.7.28，札幌夕張線道路改良工事，苫小牧工業港，北海道ピーエス幌別工場等）
参加者　32 名
（第2回 36.10.32，アサノ生コンクリート工場 札幌生コンクリート工場，札幌市浄水場ほか）
参加者　60 名

（2）　東北支部　支部長　樋浦大三

1）役 員 会（36.4.5～37.2.22）　9回
2）幹 事 会（36.8.14～37.2.13）　2回
3）支部総会（36.5.12，仙台商工会議所）参加者 130 名
4）見 学 会
a）36.7.19～20　皆瀬ダム，国道13号線　参加者 60 名
b）36.10.19　大倉ダム　参加者 63 名
5）講 習 会
水理講習会（36.11.7～8，東北大学）
演　題　9 題　参加者延べ　180 名
道路講習会（37.12.24～25，仙台商工会議所）
演　題　4 題　参加者　340 名
6）技術研究発表会（37.3.15，日立ファミリー センター）
演　題　12 題　参加者　120 名

（3）　中部支部　支部長　吉川吉三

1）役 員 会（36.4.20～37.3.16）　4回
2）幹 事 会　毎月1回
3）支部総会（36.10.28～29，愛知県豊橋市および東三河）
記念講演　2 題　参加者　75 名
4）研究発表会（36.11.17，金沢市石川県町村会館）
題　目　11 題　参加者　130 名
5）講 習 会（36.10.20，名古屋市公会堂，本部およびPC技術協会共催
題　目　7 題　参加者　270 名
6）講 演 会
a）36. 8.26　名古屋市　大津橋ビル
「OR と基礎工」　3 題　参加者　130 名
b）37. 1.25　名古屋市　大津橋ビル
「海外の土木情勢」　3 題　参加者　75 名
7）見 学 会

a) 36. 6.24 名神高速道路木曽三川橋梁工事
参加者 141 名
b) 36. 7.22～23 黒部川第四発電所御前沢ダム工事
参加者 95 名
c) 36. 9.21 トヨタ自動車工業KK元町工場および愛知用水公団東郷調整池 参加者 100 名
d) 37. 3. 9 名古屋市高速度鉄道第3期覚王山付近工事 参加者 123 名

8) 学生見学会
a) 信州大学 (36.5.15～18)
国鉄技術研究所その他 参加者 31 名
b) 金沢大学 (36.11.20)
七尾港その他 参加者 58 名
c) 岐阜大学 (36.12. 4)
名古屋港その他 参加者 53 名
d) 名古屋工業大学 (37.2.3～4)
丹那トンネルその他 参加者 63 名

9) 昭和 36 年土木学会総会，第 16 回年次学術講演会，見学等の本部行事の実施に全面的に協力。

(4) 関西支部 支部長 高津俊久

1) 幹事会 毎月1回
2) 商議員会 (36.5.17～37.3.19) 4回
3) 学生見学会常設委員会 (36.8.22) 1回
4) 土木賞・吉田賞候補論文支部推薦詮衡委員会 (36.12.15) 1回
5) 第 34 回通常総会 (36.5.17，中央電気倶楽部)
講演1題，映画2題，参加者 73 名
6) 講演会
a) 36. 5.16 メナール博士特別講演会 大手前建設会館
講演1題
Menard 式土圧計の使用実演 大阪合同庁舎
主催：日仏工業技術会・日仏理工科学会，後援：土質工学会関西支部・土木学会関西支部，参加者 68 名
b) 36. 5.20 通俗講演会 神戸市須磨水族館
講演3題，映画3題，参加者 401 名
c) 36.11.12 支部年次学術講演会 神戸大学
一般講演 51 題，特別講演2題，参加者 217 名
d) 37. 1.18 海外事情講演会 中央電気倶楽部
講演2題，参加者 53 名
7) 講習会
a) 36. 9.25 アスファルト舗装要綱講習会 大阪府職員会館，題目2題，参加者 476 名
主催：日本道路協会・関西道路研究会・土木学会関西支部
b) 36.11.21～22 セメントコンクリート講習会 大阪府職員会館，題目 12 題，参加者 355 名
c) 37. 1.16～17 道路のための土質工学講習会 大阪府職員会館，題目 11 題
主催：土質工学会関西支部，後援：関西道路研究会・土木学会関西支部，参加者 444 名
d) 37. 3.28～29 溶接に関する講習会 大阪府職員会館，題目6題
見学A班：大阪変圧器KK溶接機工場，B班：汽車製造KK大阪製作所，参加者 345 名，うち見学 220 名，A班 108 名，B班 112 名
8) 技術講座
a) 36.10.17～19 1号（構造工学） 大阪市立大学
題目1題，参加者 138 名
b) 36.12. 5～ 6 2号（防災工学） 京都大学
題目1題，参加者 140 名
c) 37. 1.22～23 3号（土質工学） 三和銀行谷町支店
題目1題，参加者 139 名
9) 研究会
a) 36. 8.29 気象に関する研究会 大阪管区気象台
題目3題，見学：大阪管区気象台，参加者 47 名
b) 37. 2.13 爆破に関する技術研究会 大阪府職員会館，題目2題，参加者 101 名
c) 37. 3. 6 土木ののり面工法研究会 大手前会館
題目2題，参加者 84 名
10) 見学会
a) 36. 7.13 第1回（名神高速道路） 天王山ずい道東口，乙訓工区，深草工区，山科工区，参加者 155 名
b) 36. 8.12～13 第2回（二津野，椋呂方面） 風屋ダム，十津川第一発電所，二津野ダム，十津川第二発電所，参加者 39 名
c) 36.10. 4 第3回（鶴甲山および芦有道路） 神戸港埋立地，鶴甲山，芦有道路，参加者 123 名
d) 37. 2. 6 第4回（大阪市内土木工事見学会） 十三バイパス，京阪電鉄淀屋橋乗入工事，高速鉄道4号線，第二阪神国道安治川付近，梅田地下街工事，参加者 126 名
11) 学生見学会
a) 36.10.21 第5回（堺港埋立工事） 大阪府企業局臨海開発部堺港埋立工事，参加者 62 名
b) 36.11.18 第6回（摩耶埠頭および新三菱重工神戸造船所） 第三港建摩耶埠頭，新三菱重工業KK神戸造船所，参加者 80 名
c) 36.12.16 第7回（名神高速道路） 山科試験所，本線，伏見工区，乙訓工区，参加者 157 名
12) 懇親会
a) 36. 5.17 総会懇親会 中央電気倶楽部
参加者 58 名
b) 37. 1.18 会員懇親会 中央電気倶楽部
参加者 58 名
c) 37. 3.28 講師懇談会 中央電気倶楽部
参加者 14 名

(5) 中国四国支部 支部長 庄司陸太郎

1) 役員会 1回
2) 幹事会 6回
3) 講習会 2回
36.5.10 高速道路に関する講習会
36.8.29～31 コンクリート講習会
4) 学術講演会 (36.11.8～10，徳島市)
5) 見学会 (36.11.10，徳島市) 名田橋—鳴門観潮—小鳴門橋
6) 都市計画公開講演会 (37.2.27，徳島市)
7) 工業高校生表彰 (37.2.24)

(6) 西部支部 支部長 田中庸介

1) 役員会および幹事会 (36.4.3～37.1.11) 8回
2) 支部総会 (37.3.22，福岡市市町村会館)
3) 見学会 (36.5.26) 名神高速道路工事現場，関連施設および名神高速道路試験所，参加者 83 名
4) 講習会 (36.8.22～23，熊本県阿蘇町観光会館ホール) 題目8題，参加人員 170 名，希望者のみ阿蘇登山道路見学

5) 秋のエキスカーション (36.11.7～8, 本部と共催)

6) 講演会 および 見学会 (36.11.17～18, 佐賀県嬉野町公会堂) 題目9題, 参加人員170名, 見学会コース, 農林省有明干拓現場

7) 研究発表会 (37.2.16, 福岡市九電ビル) 発表数 15 題 参加者108名

(8) 会員年間統計 (36.4.1～37.3.31)

会員 / 年月	正員	特別員 特級	1級A	1級B	1級C	2級	3級	名誉員	賛助員	学生員	合計
36. 3	12 641	9	10	24	104	128	128	31	30	1 141	14 249

会員 / 年月	正員	特別員 特級	1級A	1級B	1級C	1級D	2級	名誉員	賛助員	学生員	合計
37.3	13 770	14	14	27	145	224	19	38	30	960	15 241

議案 1. 昭和 36 年度決算報告の件 (36.4.1～37.3.31)

阿部理事より説明し原案どおり承認可決された。

1. 普通会計

(単位円)

収入の部 科目	金額	支出の部 科目	金額
I 会費	21 097 442	I 総務費	18 050 639
1. 正員会費	11 930 894	1. 用地費	722 150
2. 学生員会費	553 781	2. 報酬および給与諸費	11 281 063
3. 特別員会費	7 321 455	3. 需用費	1 595 316
4. 過年度収入	1 291 312	4. 諸費	1 922 110
II 諸刊行物収入	10 014 847	5. 退職金	2 530 000
1. コンクリート標準示方書外刊行物	10 014 847	II 会議費	429 981
III 雑収入	18 032 112	1. 諸会議費	429 981
1. 講習および見学会費	1 643 402	III 負担費	22 500
2. 会誌および論文集広告代	9 713 200	1. 諸税	3 000
3. 会員名簿刊行賛助費	2 781 900	2. 諸会費	19 500
4. 論文集頒布代	1 393 808	IV 支部交付金	2 109 069
5. 会員名簿送料	419 772	1. 普通交付金	742 831
6. その他雑入	2 110 030	2. 特別交付金	1 366 238
IV 繰入金	3 330 000	V 事業費	31 480 948
1. 基金利子繰入	800 000	1. 会誌発行費	13 132 253
2. 事業資金繰入	2 530 000	2. 論文集発行費	2 298 762
		3. 会員名簿刊行費	4 332 977
		4. 諸図書刊行費	6 831 523
		5. 講演および講習会	2 433 612
		6. 調査および研究費	2 216 372
		7. 諸費	235 449
		VI 施設管理費	64 150
		VII 前年度支出超過額補填	334 344
		VIII 次年度へ繰越金	12 770
合計	52 504 401	合計	52 504 401

2. 吉田賞会計

収入の部		支出の部	
運用利子		委員会費	158 700
定期預金	125 640	印刷費	19 600
通知預金	79 331	東電株券購入手数料	63 250
金銭信託	3 686	通信費	28 924
普通預金	1 315	消耗品費	2 650
借入金	63 152		
合計	273 124	合計	273 124

3. 貸借対照表

(37.3.31. 現在)

借方		貸方	
貸付信託	1 000 000	普通会計	5 697 827
銀行預金	3 890 343	事業資金	511 254
振替貯金	278 476	基金	6 967 013
現金	25 636	吉田徳次郎博士記念基金	19 700 560
有価証券	24 360 000	引当金	673 166
建物および諸施設	8 037 241	元入金	9 659 297
什器および備品	1 622 056	未払金	596 887
会費未収金	2 375 889	預り金	2 195 019
売掛金	1 148 705	前受金	1 065 770
未収金	80 000	仮受金	197 210
棚卸図書	2 920 463		
前払金	1 080 962		
立替金	444 232		
合計	47 264 003	合計	47 264 003

議案 3. 土木学会規則一部会費改正報告の件

次のとおり尾之内理事より説明, 諒承された。

(37 年 1 月 16 日常議員会決定)

規則第 11 条中正員 および 学生員の会費をつぎのとおり改正し 37 年4月1日から実施する。

	旧年額	改正年額
正員	1 200 円	1 800 円
学生員	600 円	900 円

議案 4. 名誉員の推挙

永田会長から次のとおり候補者を推薦し賛同を得, 出席の小野, 金子, 中村の3君を紹介した。

池辺稲生君　小田急バスKK取締役会長
岩崎雄治君　朝日建設KK代表取締役
小野基樹君　元東京市水道局長, 米軍および諸都市水道顧
大蔵公望君　元貴族院議員, 財団法人自転車産業協会会長
筧斌治君　科学技術庁資源調査会専門委員
金子源一郎君　首都圏整備委員会委員
佐藤忠三郎君　第一建設KK取締役会長
高橋三郎君　社団法人国際建設技術協会監事
中村廉次君　室蘭埠頭KK顧問
三輪周蔵君　元京都市土木局長, KK銭高組顧問

議案 5. 土木賞の授与

永田委員長より別掲のごとき受賞理由の報告があり, 次の各氏に土木学会賞, 土木学会奨励賞を授与した。

土木学会賞:

1. ダム コンクリートのクリープに関する研究 (総合題目) (土木学会論文集第 72 号, 電力中央研究所技術研究所所報第 10 巻第 5～6 号)　君島博次君
1. コンクリート造鉄道建造物に現われる欠陥と その補強方法に関する研究 (鉄道技術研究報告第 168 号)　大石重成君

土木学会奨励賞:

1. 開水路における乱流構造の基礎および水理学への応用に関する一連の研究 (総合題目) (電力中央研究所英文技術報告 C6101～C6103)　日野幹雄君
1. (1) 水平横荷重を受けるアーチ橋について
   (2) アーチ橋のねじれ座屈について
   (3) 曲線格子桁の解法
   (土木学会論文集第 73, 75, 76 号)　倉西茂君

土木賞受賞者
（前列左より君島，大石，後列左より倉西，日野の各氏）

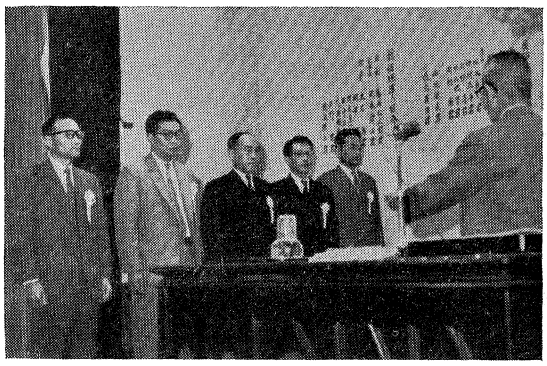
議案 6. 吉田賞および吉田研究奨励金の授与

沼田委員長御病気のため大石副委員長より別掲のごとき受賞理由の説明があり，次の各氏に吉田賞および吉田研究奨励金を授与した。

吉田賞：

1. **業績** フライアッシュをペーストして使用する方式の確立
   三村通精君
   上野勇君
   細谷浩正君
1. **論文** 小丸川PC鉄道橋の架替え工事ならびにこれに関連して行なった実験的研究報告（土木学会論文集第 76 号）
   和仁達美君
   川口輝夫君
   菅原操君
   野口功君
   羽田野義直君

吉田賞授与風景

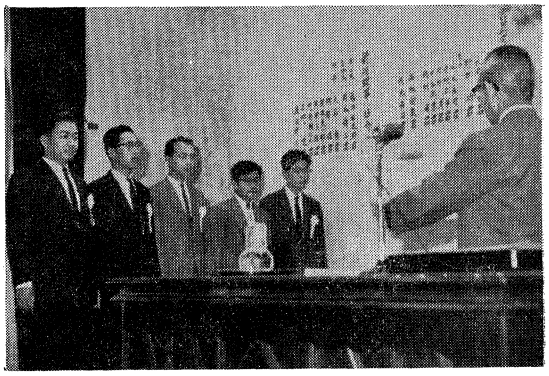


吉田研究奨励賞：

研究課題名および授与者

1. 引張と圧縮との組合せ応力を受けたコンクリートの強度
   西沢紀昭君
1. 舗装用コンクリートの乾燥収縮に関する研究
   長滝重義君
1. プレストレッシングの管理に関する研究
   野口功君
1. 高強度異形鉄筋の許容応力度に関する研究
   中村正平君
   松本嘉司君
   河野清君
   中山紀男君
   岡村甫君
1. PSコンクリートの水工構造への応用に関する研究
   西林新蔵君
1. コンクリートの合理的配合設計法に関する研究
   徳光善治君

吉田研究奨励金の授与風景



議案 7. 昭和 37 年度の新役員の紹介

永田会長より昭和 37 年5月 23 日の常議員会で選任した 37 年度新役員の紹介があった（別掲）。

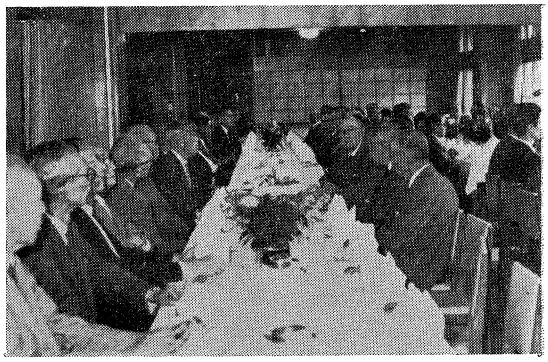
会長講演（別掲）

以上をもって議事を終了した。

懇親会

5月 26 日（第1日）18 時より大隈会館において参加者 160 名による楽しい懇親の集いが持たれた。末森専務理事の司会により山本副会長立って，永田前会長，藤井新会長を紹介それぞれ挨拶があり会食に入る。中村新名誉員の 80 才とは思われぬお元気なスピーチに一同気をのまれ，軽妙なユーモアに爆笑が渦巻く。土木賞受賞者を代表して大石重成氏（国鉄新幹線総局長）より受賞の感想，新幹線の進行状況などを伺い，吉田賞受賞者代表の上野 勇氏（電源開発奥只見ダム建設所）より現場マンとしての喜びの言葉が語られ，なごやかな雰囲気のうちに樋浦東北支部長の挨拶があって 20 時ころ盛大な宴を終った。

懇親会会場（名誉員席）

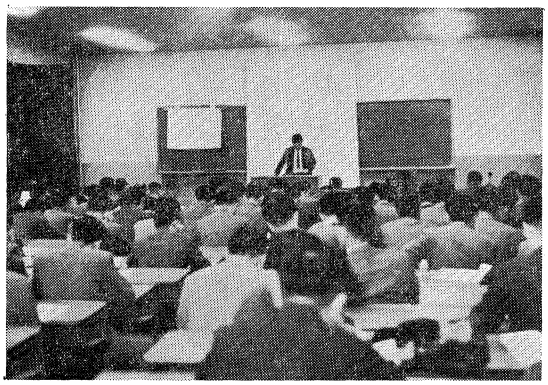


第 17 回年次学術講演会

本年は例年といくらか違い，第1日（5月26日）に総会と綜合講演にあて，第2日（5月27日）を一般講演にふりむけてみた。まず講演総数288編を，論文集編集委員会の運営上の分け方に従って4部門に分け，各部門ごとに 2〜3 会場をふりあて，講演時間を 1人 10 分間，数編ごとに一括して討議の時間を設けた。講演時間が短かすぎるとの声も聞かれたが，討議を一括したことは好評であった。毎年のことながら年次学術講演会のあり方について批判的な空気があるが，日数の制約，講演総数の増加など，根本的に改良の余地が十分ありそうである。近く研究委員会を設けてこの問題の解決をはかる予定であるが，何か良い方法があれば申出て下されば幸いである。

本年もまた御多忙のところ非常な御苦労を煩わせた各会場の司会者ならびに一般報告執筆者各位に対し，紙上より厚く御礼申上げる次第である。

学術講演会会場



第 I 部門（応用力学，構造力学，橋梁 81）

司会者：奥村敏恵，橋 善雄，中村作太郎，田原保二，久保慶三郎，前田幸雄，安宅 勝，谷本勉之助，岡本舜三（聴講者合計265名）

第 II 部門（水理学，水文学，河川，港湾，海岸工学，発電水力，衛生工学 97）

司会者：林 泰造，岩崎敏夫，杉尾捨三郎，田中 茂，粟津清蔵，増田重臣，永井荘七郎，篠原謹爾，久宝 保，岩垣雄一，岩井重久，徳平 淳，野中八郎（聴講者合計250名）

第III部門（土質力学，基礎工学，土木機械，施工 51）

司会者：星埜 和，喜内 敏，最上武雄，後藤正司，村山朔郎，三木五三郎，久野悟郎，松尾新一郎（聴講者合計290名）

第IV部門（鉄道，道路，都市計画，コンクリートおよび鉄筋コンクリート 59）

司会者：小野一良，八十島義之助，岡部二郎，米谷栄二，内田一郎，安山信雄，杉木六郎，加賀美一二三，丸安隆和，国分正胤，堺 毅，水野高明（聴講者会計330 名）

綜合講演

司会者：林 泰造，末森猛雄（聴講者延べ合計 2650名）

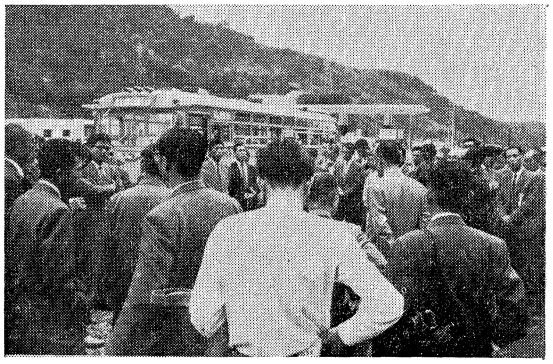
見学会（5月 28 日，29 日）

A 班（箱根バイパス・国鉄新幹線丹那トンネル東口）

5月 28 日（月）小田原駅前集合，小田原といえば「膝栗毛」の滑稽な失敗談を思い出す。五右衛門風呂を知らない弥次郎兵衛が思案の末，下駄をはいて入り，喜多八にすすめるが，それとは知らぬ喜多八は…… ところで参加会員の大半はお江戸日本橋（本会名誉員 米元晋一氏が架けた）を振出しに国鉄線，小田急線を利用，小田原城下に集まる。

松尾 神奈川県土木部長，松野 小田原土木事務所長の大きな力入れでバス 2台をチャーターして下さった。お蔭で箱根越えは旅人には苦手だが，この峠を避けて見学コースに入る。昔この地に関所を設け官路と定めてからのち第2の道路が本道となった。さてわれわれ一行が見学するのが第3の官路箱根バイパス，有料道路である。ゲートのところで佐藤管理事務所長，大立目工事々務所長の説明を受けてのち本年度名誉員に推挙せられた高令の中村廉二氏（80才）初め 70 名を乗せたバスは出発，右に迂余曲折した旧道を眺めつつ新道を走行する。快適な乗り心持，バス運転手のことばによればれば気楽な運転だそうだ，カメラのシャッターがあちこちで切られる。舗装面を見入る人，10分間の途中下車，風致観光に適応した平面縦断線形のセンス，さしもの天下の峠も土木技術者の手にかかって土の安定と，のり止めがほどこされてしまっている。

箱根バイパス・ゲート付近で説明を聞く



12時，元箱根発芦の湖遊覧船に乗船，白い船跡，新緑の山々，霧が急速にかかり船頭に灯がつき南画のような景色に変る。湖を渡り桃源台にあがる。神奈川県土木部の方々の出迎を受け湖畔のクラブハウスに案内され芦の湖を庭先のごとくに眺めながら一同昼食，同屋上にて吉川箱根地区公園管理事務所長の説明で箱根国立公園の道路および目下施工中の湖尻集団施設のお話をお聞きした。

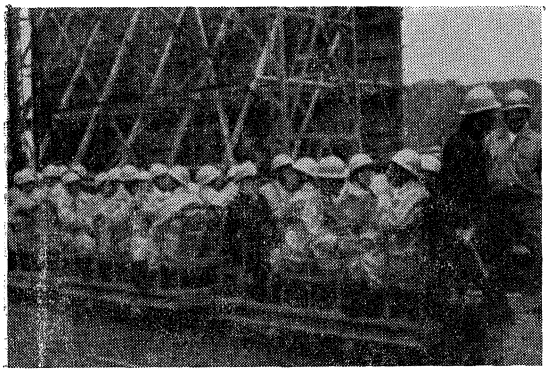
ここよりロープウエイに各自自由に乗り大湧谷の噴煙を霧のすき間よりのぞき見る。

終点の早雲山ロープウエイ駅前に待つバスに乗換え再び車の人となり強羅を経て仙石原の宿舎甲子園に 16時ごろ人る。撮影を楽しむもの，早速の入湯で陶然とするもの，それぞれである。19時頃より中村名誉員のスピーチに初まり県土木部長，地元有志の寄贈になる美酒で興を増し楽しい歓談裡に宴は運ぶ。部屋に下ったおのおのは旧交・新交お互いに談笑していた。

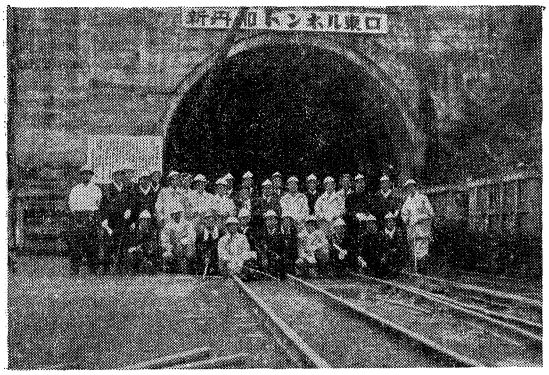
5月 29 日第2日目 トテツ早く朝の散歩するもの，山の端に陽は昇り今日の天気は良い。朝風呂につかり温泉気分になごりをおしみ8時30分バスに乗込み，つつじの美を車窓より賞で芦の湖畔道路を走り，箱根権現に詣で霧の十国峠では一ぷくして一路熱海に下る。西熱海ホテルに車を乗入れ昼食をとる。

2班に分れ坂本静岡幹線工事局長の説明を受けてイカメシイ

機関車に乗って現場に向う



新丹那トンネル入口において



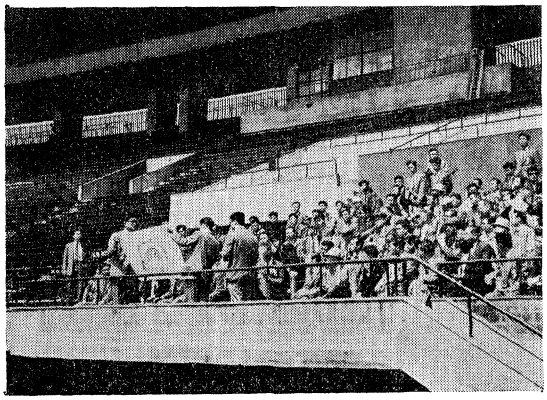
作業衣に着替え蓄電池機関車に乗せられ鋼アーチ支保工などについて説明を聞きつつ 3 km 奥まで潜入，コンクリート覆工などについて詳細に見学の上坑外の説明を工事関係者から聞き，局長心尽しの牛乳でのどをうるほし 16 時建設事務所において解散した。現実に夢の超特急列車がこのトンネルをつっ走るのもまじかいことである。

本見学会に対し特別な御配慮を下さいました神奈川県土木部，国鉄静岡幹線工事局，KK間組，地元のKK勝俣組，その他関係各位に対し深い謝意を表します。

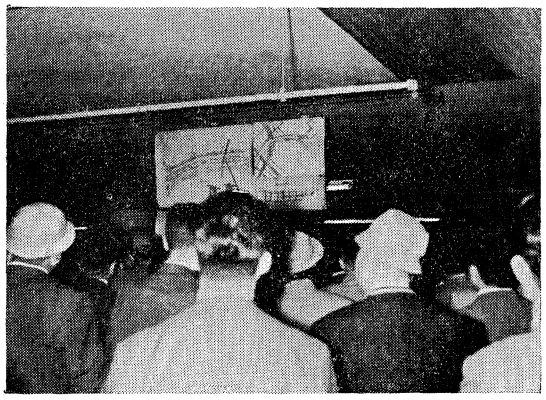
B 班（国立競技場拡張工事，首都高速道路公団・都営地下鉄）

昨日の雨も晴れ上りさつき晴れの好天気に恵まれて永田会長をはじめ参加会員(142名)の集合も非常によく，午前9時 10 分土木学会前をバス 3 台に分乗して緑したたる神宮外苑の国立競技場へ出発した。9時 30 分頃国立競技場着，1964 年8月完成を目ざして改修中の場内に入り Royal Box の前にて建設省関東地建の担当の方からこの競技場の収容人員をオリンピック競技場としての規定収容人員 10 万人に達するようにメイン スタンドの反対側を三日月形に改修し，さらにカラー テレビ放送のために照明を 1 500 lx にするなど工事内容について説明があったのち場内を一望に見渡しうるメイン スタンド上から場内および場外（千駄谷方面の景色がよかったのでこの方面を眺めている人の方が多かった）を望み，オリンピック開催時の国際色豊な状況を想像しながらバスに分乗してつぎの見学地，首都高速道路4号線の千駄ケ谷駅付近に到着した。ここで首都高速道路公団および東亜コンクリートKKより多数の資料を頂き，この代々木〜千駄ケ谷間を施工する際に採用されたB.B.R.V.工法と橋脚基礎カルウェルドぐいなどについて説明を伺った。ついで 3 径間連続PC箱型断面けたから成る道路上にあがりクロソイド曲線などを見学した。つぎに，公団の広谷第二設計課長，有江第二建設部長をはじめ工事担当の方々に3台のバスに分乗していただきバス上よりトンネルで旧赤坂離宮の前庭を横切る高速道路4号線の掘削および型わく配筋作業等の工事状況を見学し，

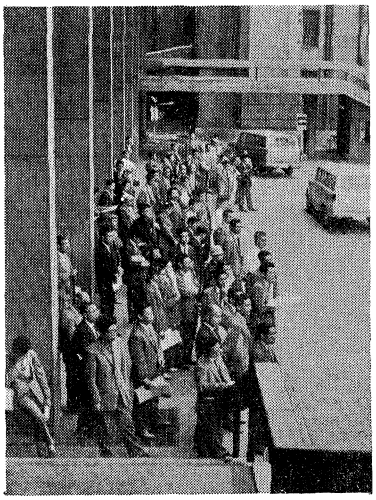
国立競技場における一行



汐留駐車場にて



都庁前にて



（永田年氏撮影）

東日本橋駅にて

外濠沿いに走る日本橋付近の高速道路の基礎工事状況等の説明を伺いながらつぎの見学地汐留駐車場に向い11時30分到着した。汐留駐車場では鈴木場長および浜田保全課長の出迎えを受け駐車場の構造，規模，収容台数，換気施設，防災施設等詳細な説明があり場内を一巡した。参加会員のほとんどは都内の交通難に比較して都心部に近いにもかかわらず場内の駐車台数の少ないのに少々疑問を持っていた。汐留駐車場を後に12時30分頃都庁都民ホールに着く。参加会員一同待望の昼食をとり，都交通局よりジュースのサービスを受ける。ただちに小倉建設本部長および塩入設計課長から都営地下鉄の概要，計画等の説明を受けたのち，浅草一押上間の隅田川川底トンネルを建設した当時のケーソン工法をわかりやすく説明したPR映画"都営地下鉄"(黒白およびカラー)を観覧したのち塩入課長をはじめ工事担当者にそれぞれのバスに分乗していただき，新橋から昭和通りにそって1号線の工事を車中より見学した。現在江戸橋では首都高速・都営地下鉄等の立体交差の工事を行なっているが都内は交通難のため，駐車場がなく降りて見学する場所が限定され5月30日開通する予定の東日本橋一浅草橋間の都営地下鉄，東日本橋駅を見学した。予定より非常に早く16時頃東京駅で解散，天候に恵まれたこの有意義な見学会を無事終了することができた。

終りにあたり，この見学会に対し御協力をいただいた，建設省関東地建，首都高速道路公団，東亜コンクリートKK，都交通局等の関係各位に紙上より深く感謝する次第である。

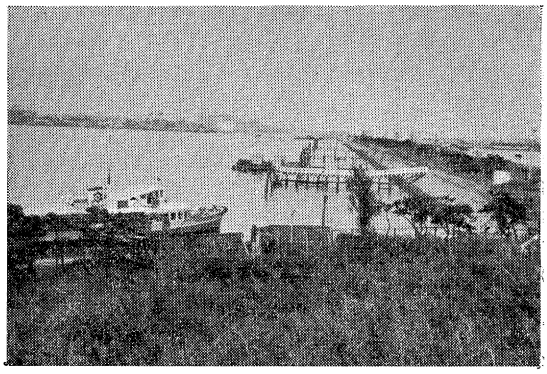
(岐阜大学　河村・記)

C班(東京瓦斯KK豊洲工場・東京港および水門工事現場)

昨日は午後からかなりの雨が降っていたので，びしょぬれの見学を覚悟していたが，今日はうって代ってよいお天気である。参加者は50名をちょっと下まわったのでバスはゆっくりだ。予定より10分おくれて発車，ガイド嬢から東京の道路についての酷評をきいて，勝鬨橋をわたり埋立地に入ると，バスの動揺はさらにはげしくなる。ガイド嬢によれば，このような道路は恋愛道路というそうだ。ほれて，ほれて，ほれぬいた道路とのことである。

9時35分豊洲の東京ガス工場に着き，講堂で都港湾局奥村計画部長，宮崎課長，和田主査より東京港およびその防災計画

第3台場より，われわれを載せた，しののめ丸と右・石油ふ頭，左・東京瓦斯ふ頭(岡正義氏撮影)



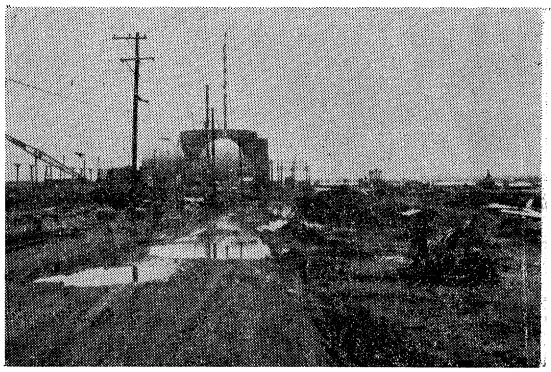
をうかがった。またカラーフィルムを見せていただく。

東京港としては，外国貿易，会社専用ふ頭は整備されてきたが，内国貿易用の公共ふ頭の建設および荷役設備の近代化がおくれているとのことである。地方都市の港が次第に近代化され，東京への積出設備は着々整備されている。野球でいえばピッチャーはよくなった，しかしキャッチャーである東京港がおくれているのではピッチャーの能力を十分生かせないではないか……と話はきわめてわかりやすい。

昭和35年の取扱い貨物量は2200万t，昭和45年にはこの倍以上になるとのこと。昭和35年に都内の鉄道による貨物量は1700万tであり，その量の大きさがわかる。今後は石油，鉱石，セメント，金属，木材，雑貨などの増加が大きいとのことで，昭和36年度から10カ年計画が始まった。その埋立面積は2200万m^2におよび，2万t級の大型外国船の公共ふ頭の建設，国内の定期船に対しては，航路別に指定ベースを増設するとともに，鉄鋼，製材，砂などの取り扱いを品種別に専門化する施設を用意する。ここ埋立地内に巾員100mの幹線道路を建設し，千葉と横浜を結び，またトラックターミナルをつくる。石海輸送の合理化，貯木場の建設など地図と首引きでお話をきく。

江東デルタ地帯の防災計画としては，地盤沈下対策とあわせて，キティ台風の進路を伊勢湾台風クラスが通過するものと想定して，気象庁の協力により高潮をきめ，波浪高を加えて，防潮，防波堤でこの地帯を守る。この堤の内と外をつなぐ水門は，豊洲が完成，東雲，辰己が工事中。何十年東京に住みながら，この方面を全く知らない方も多い。目と耳から有益な知識を得た。

東京瓦斯埋立増設工事現場(岡正義氏撮影)



つづいて，東京ガス豊洲工場の秋山技術長から工場の説明，映画によってガス会社の活動状況をみせて頂く。今年の冬から都市ガスの熱量変更とかで各家庭のガス器具をいじられている時なので興味が深かった。ここで昼食。

12時35分工場発，バスの中から豊洲のガス工場の専用ふ頭の増設工事の見学をして，豊洲水門にゆく。基礎はケーソン，水門は2連でいずれも上下2枚のローラーゲートより成る。この付近の堤防高は6.80mである。ピヤーの上にのぼると晴海地区，隅田川河口の相生橋が見えたので水門の位置がわかった。

前には豊洲貯木場がある。海の中に林立するコンクリート柱で貯木を囲い，台風時の流出を防いでいる。伊勢湾台風の二の舞をしないため，貯木には慎重な考慮が払われている。

東雲水門は阪神築港KKの手で施工中。上部構造は同様だが下部は径40cmのサンドパイルとのこと。ここでジュースのサービスを受け，辰己水門に向い，ここは時間の関係で遠望する。

黎明橋にもどり，ここから乗船，説明は大島主査である。朝潮運河を出て，航路にそって大井沖までゆき，引きかえしながらテトラポット防波堤の説明をきき第3台場に上陸，ここから東京港をみる。

たくましく建設が進んでいる港内，碇泊している巨船，それを見下す東京タワー等は近代工学の生むところであるが，東京都民の生みだす塵芥の70～80%の捨場である通称ゴミの島（辰己水門沖）へ通うゴミ船が目の前をとおる。これはまたおそろしく原始的である。

15時25分再び乗船，16時5分竹芝桟橋についた。17時をすぎると何時間か，大型バスの運行が中絶させられるので運転手，ガイド嬢は首を長くして一行をまっていた。16時25分東京駅着解散。

終りに際し，都港湾局，東京瓦斯KK，阪神築港の方々に種々ご配慮をいただきましたことを，厚く御礼申し上げます。

（参加者43名）

（防衛大学校　畠山・記）

D班（千葉工業港・辰己団地・東京港フェリー・東京電力KK横須賀火力発電所）

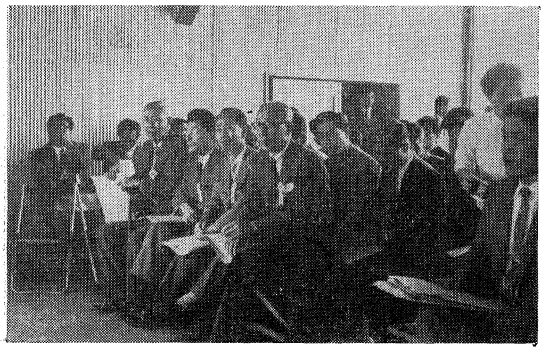
7時40分両国駅前広場から14名不参で81名の参加者が2台のバスに分乗して出発，途中千葉街道を設計速度80kmの京葉有料道路を快走したのち，車の混雑に悩みながら9時頃千葉港到着。県の片岡土木部長の臨海工業地帯の開発の話や，劔持建設局長の千葉港の説明，海上保安部の係りの人から千葉灯標の解説などを興味深くきいてから，ランチで海から工業地帯を見学しながら旭ガラス工場に到着し，スライドによる説明をきいたのち工場を案内していただいた。千葉工場では主として塩安肥料とソーダ灰を製造している。その中で燃料，原料として天然ガスを外房の九十九里浜にいくつかのヤグラを立てて採取し，延々34km半島を横断して千葉地帯までパイプ輸送をしてることに興味があった。

次いでバスの途中で一面の埋立砂地の「浜ニラ」による緑化の苦心談をききながら，三井造船工場に到着する。主として建設ドライドック（船体だけを造る）を主として見学する。現在8万tのタンカーの能力で，近く10万tに拡張，さらに隣に一つ増設の計画とのこと，佐世保重工業の旧海軍のぎ装ドックの深さに比して（11万tタンカー造船中）浅いことを感じた。次に各工場用の辰巳住宅団地を見学昼食をする。事業費に民間資本の導入，また旧地主への還元地1割（坪4000円），各会社に対する値段は第1期完了部分坪5000円，第2期7000円とのこと，各会社で変わった建築様式で，画一的でないのが面白いと思う。

それから両海岸二国を南下し，道路は舗装区間は60kmくらいで快適であったが，バスガイドが玄海灘と説明した悪路も相当あった。東京観音の話をききながら浜金谷港につく。その間の千葉県石渡技師の御案内の労に感謝する。

フェリーボートは民営2隻530t，日本最大とのこと。東京湾口を30分で横断できることに驚いたが，前日の悪天候のため少々うねりが大きく，三浦半島の風光を賞しながら久里浜に15分延着する。上陸後東電横須賀火力発電所を見学する。タービン発電機をクロスコンパン型にして1台の出力26.5万kW，第1期第2期分は石炭・重油共焼，第3期工事中のものは重油専焼式で完成時123万kW（T.V.Aの米国一のキングストン火力は160万kW）で東洋一という。塩風を防ぐために全部カ

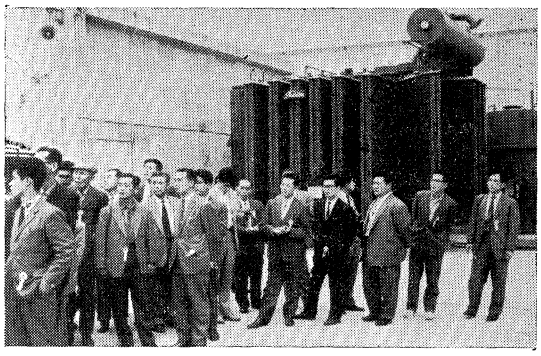
千葉港の説明をきく参加者



三井造船KKのドック現場にて
（千葉県君津郡君津町埋立地）

フェリーに乗り込むバス（金谷港にて）

東京電力横須賀火力発電所における一行



白石基礎工事 KK の現場にて
(東電横須賀火力発電所構内)

バー 50 数 m の高層建築で，旭ガラスの露天式と対称的に感じた次第である。白石基礎による基礎工事，外海の護岸を見学したのち久里浜海岸ドラブインで白石，鹿島両社の御厚意で少々かわいた喉をうるおし，昼の混雑と変わり静かな夜の第一京浜国道を，発電や交通対策談義などの間に一路東京駅前へ向い 20 時 30 分頃解散した。

数々の東京湾埋立夢の計画から本月の自民特別委千葉沖に 1.3 万 ha の第二の東京計画など念頭におき，また地方の 600 万都市計画が不活発なのに，大消費地東京を控えた京葉地帯開発の活気をまざまざと感じた次第である。

終りに，このたびの見学に多大の御便宜を賜った，千葉県当局，旭ガラス，三井造船両社千葉工場，東京電力KK横須賀火力発電所および白石基礎工事KK ならびにそれぞれ現場御説明に当られた関係者の方々に，厚く御礼申上げる次第である。長時間にわたる見学の疲れを癒しえた，白石基礎工事KK，鹿島建設 KK，大滝工務店各社の御芳志にたいし深甚の謝意を表する。

(東海大学　谷口・記)

コンクリート技術者の活躍

総会と前後してコンクリート関係の技術者の会合が活発に行なわた。

5 月 25 日午後には異形鉄筋に関するシンポジウムが土木学会会議室で開催され，国分コンクリート委員会委員長の「異形鉄筋利用の現状について」以下 13 の演題について講演が行なわれた。予想に反して 100 名をはるかに越える大聴衆が集まったため立って聞かれた方もあり申しわけなかった。演題は学会誌 4 月号に掲載されたとおりであり，異形鉄筋を用いた標準設計，付着，定着，疲労その他を対象とし広範囲にわたる研究者によって成果が発表されたものであるが，詳細はコンクリート・ライブラリー（土木学会で新たに出版されるコンクリート工学のシリーズで会員諸兄の興味深いものを選ぶ予定である。第 1 号としては故吉田徳次郎先生の「コンクリートの話」が出版されている）で発表される予定である。

異形鉄筋シンポジウムに続いて新進コンクリート技術者との交歓会が開かれた。これは若いコンクリート技術者の研究概況，抱負その他をうかがいたいというコンクリート委員会の新しい試みであったが 44 名の技術者が元気な抱負を述べられ，旧進（？）技術者も意を新たにしてコンクリート技術の進展につくそうと誓う実に有意義な会であった。今回の好成績から見てこの会は毎年開かれる予定である。

5 月 26 日午後にはコンクリート技術者有志 58 名が丸の内会館グリルに土木賞受賞者でコンクリート関係の方および吉田賞受賞者，吉田研究奨励賞受賞者を御招待しお祝い申し上げた。国分コンクリート委員会委員長の御祝いの言葉に始まり大石国鉄常務理事以下の御礼の言葉が続いたが，多数の夫人も見えたため会は実に和気あいあいと進められた。なお，コンクリート・ライブラリー 1 号としての吉田先生の「コンクリートの話」がこの席でひろうされたことは実に有意義であった。

最後に，第 1 回の吉田賞を受賞されたほか，以上の会合で大いに活躍された川口国鉄構造物設計事務所次長が一両日ののち急逝されたことは全く衝撃であった。心より御冥福をお祈りする次第である。

(鉄道技研　樋口・記)

会場風景（5 月 26 日丸の内会館）

夫人を混えての記念撮影　(船越　稔氏撮影)

(山崎寛司氏撮影)